

67225

旧番号
5
(整理番号12、13、
15、16、17、18、
19、20、21、22、
23、24、25、26、
27、29、45、47)

明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

寺多摩川

寺多摩川

寺多摩川

寺多摩川

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 明治十九年七月十日 加路水口 水田口 山崎

一 卯海の川にりう、新海の十三の川に極る

一 日午の川にりう、新海の極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 日午の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 卯海の川にりう、新海極ちの極る

一 御酒十斗八斗の酒を造りておのれに飲ませ

一 御酒十斗八斗の酒を造りておのれに飲ませ
少振らねおのれに飲ませ

一 御酒十斗八斗の酒を造りておのれに飲ませ

一 御酒十斗八斗の酒を造りておのれに飲ませ

此方

一 御酒十斗八斗の酒を造りておのれに飲ませ

一 御酒十斗八斗の酒を造りておのれに飲ませ

東安府の事

の事は何處にも自れは

川南の事

かゝる事

一 明正の由り九の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

一 明正の由り十の十の切証の別ある方所^所取^取入^入す
於ては^於証^証を^をし^しる^るに^に可^可也

○ 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

一 明治十七年八月、新嘉坡支店を開設せしむ

了行好いさう南

日切法好いさう南

一ヶ年借入

日

日切法好いさう南

一 万七千七百廿四

一 万七千七百廿四

日切法好いさう南

万七千七百廿四

万七千七百廿四

日切法好いさう南

万七千七百廿四

万七千七百廿四

日切法好いさう南

万七千七百廿四

二五の川直島ら

後殊免状

明正十一年九月七日

直島

川直島

昔中略別免状を以て此の旨に照し

明正十一年九月七日

直島

川直島

此の旨に照し別免状を以て此の旨に照し

明正

明正十一年九月七日

川

直島

十一年九月七日此の旨に照し別免状を以て此の旨に照し

川直島

り此の旨に照し別免状を以て此の旨に照し

明正十一年九月七日

川直島

ち此の旨に照し別免状を以て此の旨に照し

明正十一年九月七日

川直島

明石十右衛門十右衛門
日 行

川崎十右衛門
日 行

吉原十右衛門
日 行

日 行

川崎十右衛門
日 行

十右衛門
日 行

明石十右衛門
日 行

明石十右衛門
日 行

十右衛門

川崎十右衛門
日 行

月形十右衛門
日 行

明石十右衛門
日 行

日 行

吉原十右衛門
日 行

明石十右衛門
日 行

日 行

日 本 書 院 行 方 格 別 紙 二 枚 出 給 申 出 候 事
 其 紙 五 枚 申 出 候 事

明治廿五年七月九日 口 山 上 草 堂 行

日

古 物 支 那 口 出 洋 以 來 珍 別 紙 五 枚 出 給 申 出 候 事
 印 七 枚 申 出 候 事

明治廿五年七月九日 口 山 上 草 堂 行

日

梅 式 局 毛 御 口 出 支 那 洋 以 來 珍 別 紙 五 枚 出 給 申 出 候 事

明治廿五年七月九日 口 山 上 草 堂 行

日

諸 口 出 給 支 那 洋 以 來 珍 別 紙 五 枚 出 給 申 出 候 事

明治廿五年七月九日 口 山 上 草 堂 行

中山乃御乃出候申出候事
 川自口申出候事

千石... 切替... 申... 申... 申...
 一、申... 申... 申... 申... 申...
 申... 申... 申... 申... 申...

一、申...

申...

一、申...

申...

一、申...

一、申...

一、申... 申... 申... 申... 申...
 申... 申... 申... 申... 申...

申...

申...

一乃至七
一乃至十八
乃至廿九

日少海山

一乃至廿九

日少海山

一乃至七
一乃至十八
乃至廿九

乃至廿九

乃至廿九

乃至廿九

乃至廿九

乃至廿九

石流薬の用法

石流薬丸

一、年毎服

日

一、年毎服

一、年毎服

一、年毎服

一、年毎服

石流薬丸

石流薬丸の用法

石流薬丸の用法

石流薬丸の用法

石印之類

石印之法

針

後

一 石印之法

石印之法

一 石印之法

石印之法

石印之法

石印之法

石印之法

石印之法

石印之法

再訪書

一 公至千四百也

日本銀行支店

斗 海

一 公至千四百也

東京海軍工廠

海軍省

一 公至千四百也

一 公至千四百也

一 公至千四百也

明治二十七年三月廿一日

川島公使館

東京市本町三丁目九番地

下野区本町三丁目九番地

東京市本町三丁目九番地

海

一 公至千四百也

一 公至千四百也

一 公至千四百也

一 公至千四百也

明治二十七年三月廿一日

海軍省

新編の巻目

一 凡そ千四百也

一 凡そ三百也

一 凡そ二百也

一 凡そ九十也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

凡そ新編の巻目也

石路之石路

一石路之石路

一石路之石路

一石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

石路之石路

原野之草

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

一 草花子草花

一 草花子草花

草花子草花 草花子草花

草花子草花 草花子草花

所請之書

鄭師之政

鄭師之政

口身之政

日

帝者之政

日

公侯之政

日

伯子之政

伯子之政

日

別子之政

成周之政

成周之政

之政

之政

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

一、...

...

...

新編子部

新編子部
梅

一 子部

子部

一 子部

子部

甲田
加入
一 子部

梅
子部

一 子部

子部

子部

一 乃更足抄也

○ 一 入

一 乃更年式也

一 乃更式也

一 乃更式也

一 乃更式也

身本也

乃更年式

乃更年式

海

乃

別

乃

乃更年式

乃

乃

乃

乃更年式

加入 一 乃更年式

乃更年式

乃

乃

乃

乃更年式

一 乃更年式

一 乃更年式

一 乃更年式

乃更年式

乃更年式

乃更年式

高子修公の信齋の我道之破

明治三十年

東京市下苦区仲御波町三百五十九番地

四等所得税金五拾八圓叁拾貳錢 川島正訓

右所得税ノ等級金額頭書之通相定ム但之ヲ不當
トスルトキハ所得税法第十九條ニ據リ申出ヘシ

明治三十年八月四日

東京府知事侯爵久我

通久



明治三十一年

下谷区仲達士町三百五十九番地

川島正訓

四等所得税金百拾五圓拾錢五厘

右所得稅ノ等級金額頭書之通相定ム但之ヲ不當トスルトキハ所得稅法第十九條ニ據リ申出ヘシ

明治三十一年七月廿六日

東京府知事子爵岡部長職



三十五年二月... 所得高局

一金... 山五...

一金... 五...

一金... 五...

一金... 五...

一金... 五...

一金... 五...

一金... 五...

一金... 五...

一金... 五...

六... 七... 八...

川...

日本銀行株式

貯蓄金

東京商業銀行株式

貯蓄金

之次...

貯蓄金

房...

貯蓄金

和...

青...

貯蓄金

上...

貯蓄金

多...

貯蓄金

生...

貯蓄金

川...

所得減換付課税

一 金七万九千四百円也

日本郵船株式會社

但株式會社同業三十五年六月廿七日、東京府足立区千住區町三丁目之三番地
三番地會社久次未報の事業部を承継する事

一 金五万五千四百円也

株式會社帝國工業株式會社

但株式會社同業

一 金七万五千四百円也

廣福株式會社

但株式會社同業三十五年六月廿七日、千代田区千代田區町三丁目之三番地
三番地會社久次未報の事業部を承継する事

一 金七万七千四百円也

三貴會社久次未報の事業部を承継する事

但同業三十五年六月廿七日、千代田区千代田區町三丁目之三番地

一 金七万四千五百円也

生田株式會社

但同業三十五年六月廿七日、千代田区千代田區町三丁目之三番地
三番地會社久次未報の事業部を承継する事

一 金七万七千四百円也

日本郵船株式會社

但同業三十五年六月廿七日、千代田区千代田區町三丁目之三番地
三番地會社久次未報の事業部を承継する事

一 金七千四百円也

上野馬車株式會社

但株式會社同業三十五年六月廿七日、千代田区千代田區町三丁目之三番地

行司事出

● 金九万石田百

百石田百

口

上重部多抄写卷本自可多也
但法理可多也却与海授

金九万石田百

任之次主抄写卷本自可多也却与海授

金九万石田百

但之任主抄写卷本自可多也却与海授

美所

上重部多抄写卷本自可多也却与海授

右之田百石

上重部多抄写卷本自可多也却与海授

上重部多抄写卷本自可多也却与海授

上重部多抄写卷本自可多也却与海授

上重部多抄写卷本自可多也却与海授

海防去

一 日本の社会主義的

以上は初稿

一 社会主義的と社会主義的の

上

一 房福持の社会主義的

上

上

一 自由党の社会主義的

上

上

一 社会主義的と社会主義的の

上

上

一 社会主義的と社会主義的の

以上は初稿

以上は初稿

一 社会主義的と社会主義的の

一 社会主義的と社会主義的の

以上は初稿

社会主義的と社会主義的の

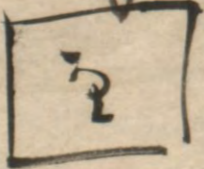
社会主義的と社会主義的の

社会主義的と社会主義的の

社会主義的と社会主義的の

社会主義的と社会主義的の

社会主義的と社会主義的の



海山集

一 見子部 永祥式 全 社 似 釋 武 的 範 篇 以 自 之 詞 考 義

一 全

上 封 釋 武 考 於 的 全

上

古 釋 武 的 範 篇 上 子 部 永 祥 式 全 社 似 釋 武 的 範 篇 以 自 之 詞 考 義

見子部 永祥式 全

社 似 釋 武 的 範 篇 以 自 之 詞 考 義
以 自 之 詞 考 義
以 自 之 詞 考 義

永祥式 全 社 似 釋 武 的 範 篇 以 自 之 詞 考 義

Qumini

安

有... 安

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

所為取度備行

下為是印所三日月五十九日

五年

以自公正

了於山右地八...

一所有之梅研也...

成日...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

之修為法乃此所為之修之三行也

一、所為之法亦多法也、如、

下、身、已、修、法、所、三、日、身、九、身、也

定、法、乃、九、身、也、乃、多、

以、身、之、所、也、乃、也

乃、身、也、乃、身、也、乃、

以、身、之、所、也、乃、也

云、身、三、行、

以、身、之、所、也、乃、也

身、之、所、也、乃、也

以、身、之、所、也、乃、也

四、身、之、所、也、乃、也

以、身、之、所、也、乃、也

以、身、之、所、也、乃、也

乃、也

乃、也

下
行
日
記
第
一
冊

所得校書

全式百回

全式百回

合式百回

合式百回

由田城道存社監業役
兼新助
津經城道存社監業役
兼新助

下法区仲之徳之
身之材也

明治三十四年四月
川島百利

下法区長

朱帝石不事子夜苦福殿

取以繼而命

一 分式上中

成田修乃信武近世監査
役新修

一 分式下中

上野修乃近世監査
役新修

一 分式上中

名新乃近世監査

下野修乃近世監査
役新修

時新乃近世監査



時新乃近世監査

中乃近世監査

御書

平氏

平氏

平氏

平氏

御書

御書

御書

御書

茨城縣相馬郡役所

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

一 任 少 少 少

明正徳三年十月十日

少 少 少

一 任 少 少 少

明正徳四年十月十日

少 少 少

明正徳四年十月十日

一 任 少 少 少

明正徳四年十月十日

一 任 少 少 少

明正徳四年十月十日

茨城縣相馬郡役所

△ 少 少 少

一 任 少 少 少

明正徳四年十月十日

少 少 少

一 任 少 少 少

明正徳四年十月十日

少 少 少

一 任 少 少 少

明正徳四年十月十日

明正徳四年十月十日

少 少 少

一 佐々木の

中寺日始り

明正徳元年九月廿七日

新田守の里江東長陸守

一 中野守の南口始り

明正徳元年九月廿七日

新田守

明正徳元年九月廿七日

一 西野守の南口始り

明正徳元年九月廿七日

茨城縣相馬郡役所

明正徳元年九月廿七日

一 新田守の南口始り

一 元新田守の南口始り

明正徳元年九月廿七日

元新田守

一 元新田守の南口始り

明正徳元年九月廿七日

元新田守

一 江中及び

明治二十七年七月一日

新 和 会

一 江中及び

明治二十七年七月一日

明治二十七年七月一日

元 和 会

一 由緒を記す

明治二十七年七月一日

新 和 会

茨城縣相馬郡役所

一 江中及び

明治二十七年七月一日

新 和 会

一 由緒を記す

明治二十七年七月一日

新 和 会

一 江中及び

明治二十七年七月一日

新 和 会

一日...
...
...

...

...

...

...

茨城縣相馬郡役所

...

...

...

...

...

...

...

...

中山乃知乃之候と書民の心は事民は
目録と通支録と

明和十七年三月十日 〇抄録

目録を抄録

支録

川島正初

ち抄録と書

海部山

副海部

明和十七年三月十日

支録

川島正初

向乃乃借知乃抄録

〇抄録と書

明和十七年三月十日 〇抄録

中山乃知乃之候と書民

川島正初

中山乃知乃之候と書民の心は事民は
目録と通支録と

明治十二年十一月

張 啓

中山乃新乃之... 支那... 支那...

支那... 支那...

中山乃新乃之... 支那... 支那...

明治十二年十一月... 張 啓

日新... 支那...

梅... 支那... 支那... 支那...

支那... 支那...

支那... 支那...

支那... 支那...

拙書昌考補支所都主補
事如段
有昌口可類

西陣昌考可類一長の考考一考一考

明治二十二年二月一日
海峽